



静岡市 都市景観表彰事業

静岡市
まちかどコレクション
2018-'19



静岡市まちかどコレクション

みなさまの好きな“まちかど”を、
写真を添えて届けていただきました。

1. 趣旨

市民のみなさまより、身近にある良好な景観を、発見・推薦いただき、静岡市都市景観表彰選考委員会を経て表彰・発信を行うことで、市民の景観に対する意識の向上を図り、良好な景観形成の推進を行います。



■ 現地調査

2. 部門の種類

- 部門1:まちかど景観コレクション
- 部門2:まちかど看板コレクション

3. 募集状況

- 募集期間:平成30年9月3日(月)から11月30日(金)
- 応募件数:①まちかど景観コレクション(124件)
②まちかど看板コレクション(40件)
応募総数164件



■ 最終選考

4. 選考の流れ



静岡市都市景観表彰選考委員会 選考委員

- 寒竹 伸一(委員長)
静岡文化芸術大学大学院デザイン研究科 教授
- 土屋 和男
常葉大学造形学部造形学科 教授
- 志村 弘一
(公社)静岡県造園緑化協会 専務理事兼事務局長
- ナレス マハラジャン
静岡県ふじのくに親善大使
- 本原 令子
38STUDIO 芸術家
- 堤 丈夫
静岡県広告美術業協同組合 副理事長
- 美濃部 雄人
静岡市 副市長

世界に輝く静岡市の景観

静岡市長 **田辺 信宏**

景観法は平成16年に「良好な景観は国民共通の資産として継続的な景観形成する」ことを基本理念に制定され、その後、景観に取り組む景観行政団体が増え、「景観はまちの魅力的な資産」として全国的に認められるようになりました。

法の制定から10年余りが過ぎた現在、景観に対する社会的なニーズが変化する中で、内閣総理大臣を議長とする「明日の日本を支える観光ビジョン構想会」では、「景観は守るだけでなく、育てることを意識した総合的な景観を形成することが重要」として、インバウンド観光目標達成のために全国的な「景観まちづくり事業」が期待されております。

本市においては、景観行政団体として、彩る自然と歴史感じる文化的な景観に恵まれた豊かな景観資産を活かし、市民目線に立った、「誇り」を持てる静岡らしい景観まちづくりを推進させております。この景観への取り組みが、第3次総合計画に掲げた、住む人が誇りと安らぎを感じ、訪れる人が憧れを抱く魅力的で風格のある“世界水準の都市”への飛躍を目指した『世界に輝く静岡』の実現につながると考えております。

令和元年8月には「静岡市景観計画」を改訂し、近年の景観へのニーズやSDGsの考え方を意識した、より積極的な景観まちづくりを目標とする景観形成のルールを一新しました。また、景観教育など「景観を育てる人の想い」の育成も重要であると捉え、その一つとして、静岡市都市景観表彰事業「静岡市まちかどコレクション」を行っております。

この事業は、“まちかど”に存在する多数の魅力的な都市景観を「みつけて」「集めて」「広める」ことを通して、市民のみなさまに、景観に対する意識＝シビックプライドを高く持っていただくことを目的に開催しております。

本市では、「良好な景観形成を推進することが成熟した都市に必要な条件である。」と考え、景観資産を守り、より魅力的に育て、景観まちづくりとして活用することによって、市民のみなさまの景観を育てる気持ちが向上することを期待し、ソフトとハードの両面から良好な景観形成事業に積極的に取り組んでまいります。

総 評

静岡市都市景観表彰選考委員会 委員長 **寒竹 伸一**

2年に一度の静岡市まちかどコレクション選考委員会に参加させていただくことを楽しみにしています。静岡市の新たなまちかど景観と看板に会えることと、そのコレクションを選考していただく委員の方々と再会し、応募されたコレクションを見学し、それぞれの景観の良さについて議論して、納得するすばらしい景観と看板を選出するというこちよさを共有することができるからです。

委員のみなさんと共有していることは、まちの景観とは、そのまちに住まう人々がどのように住みたいかということが形に表われたものであり、個人が恣意的につくり出したものではないということ。個人のこだけしか考えないような設計者が、目的を間違えてつくり出したものではないということ。住まい方は、その場所の自然環境に依り、歴史の流れに依り、コミュニティの存在に依るものであり、他者と自分のどちらも生きるような関係が存在しているということです。看板についても同じことです。看板だけのことを考えるのではなく、看板とその店の内外、そして看板とその店と周囲のまちとの関係がデザインされていることが大切だということです。

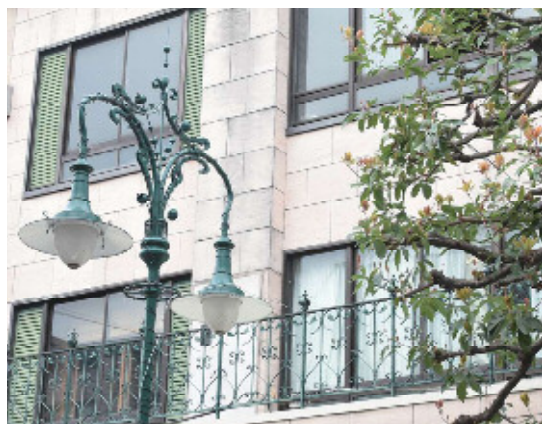
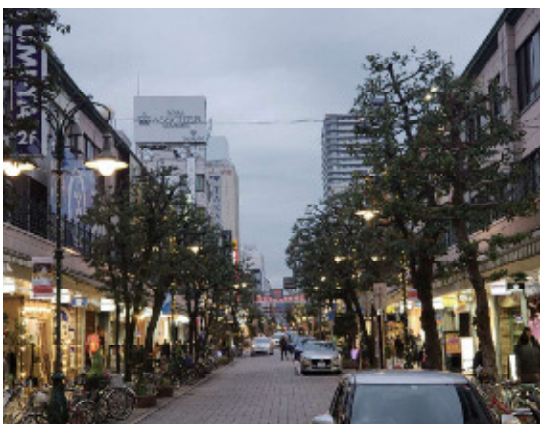
まちかど景観コレクション

大賞



「呉六名店街」

所在地：葵区 呉服町
管理者：呉六名店街



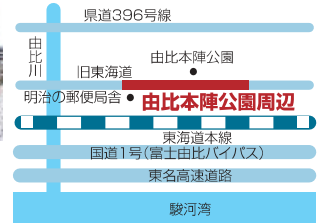
審査委員より

呉服町の名店街は、旧東海道沿いの商業地を起源とし、現在の街並みは昭和31-33年につくられた防火建築帯の共同建築である。昭和15年の大火、20年の大空襲を経て計画された、戦後復興の象徴であった。

呉六名店街は、南北6区画にわたる共同建築のなかでも、江川町通りとの交差点から始まる、最も駅に近い東側の街区である。壁面線を揃えて両側に並ぶ3階建ての建物は、威圧的ではないヒューマンスケールの高さとなっている。それぞれの店舗は、江戸期以来の土地区画を反映して間口がさまざまであり、現代のビルにはない、一見、同じようだけど少しずつ違う街並みをつくりだしている。また建物が道路境界線から両側2mずつ後退して歩道として提供され、歩行者はそれと気づかずそこを歩いている。呉六名店街では、改修によって2階にバルコニーを設け、一層街並みの統一を図り、さらに街路樹も隣接街区よりも多く、根元の植樹帯も適度に歩道を区画している。車がスピードを出せない道路幅と相まって、歩行者に優しい、歩くのが楽しい街がつけられている。ここには単に経済優先ではない、みんなで街を美しく使いやすくしようという公共性が、形となって現れていて、今後のまちづくり、景観づくりに学ばべき所は多い。

(土屋 和男)

優秀賞(地域資源賞)



「由比本陣公園周辺」

所在地:清水区 由比
代表組織:由比地区連合自治会

審査委員より

由比本陣は、その名の通り宿場町由比で、高位の役人などが宿泊する施設であり、その跡地内では静岡市が広重美術館、東海道由比交流館などを運営している。一方、道路に面した表門、石垣、木塙、馬の水飲み場などは江戸時代の面影が再現されている。

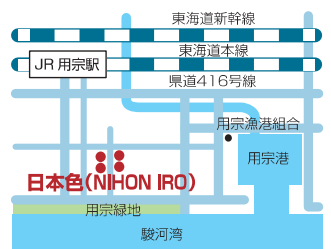
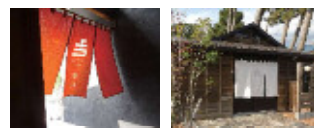
由比本陣自体は平成7年に第8回静岡県景観賞を受賞しているが、特に馬の水飲み場には多数の亀が生息し、それを見るだけでも癒される空間である。

今回の受賞は、由比本陣自体は過去の受賞時と変わらぬ輝きを保っていることに加え、旧来の宿場町が役割を変えていく中で、明治時代以降の洋館も含む歴史的建造物が、銀行や商店として使われながら保存されていることである。これは、自動車を通すための道路は北と南に整備され、この道路自体の拡幅の必要がなかったことに加え、使い勝手が必ずしもいいと言えない古い建築物を、大切に用いた所有者の努力の賜物である。

前面の旧街道は、イベントなどにも利用され、近くには駐車場もあり、休日には観光客で賑わうが、点としての建築物を見ながら回遊する時に目に入る沿道の建築物の形状や色が必ずしも統一されているわけではなく、商店街のように街並み整備を推進する組織もないため、今後所有者の高齢化とともに、建て替えが進んだ場合、落ち着いた街並みも変わっていく恐れもあり、この貴重な地域資源を守っていく期待を込めて地域資源賞としたものである。

(静岡市副市長 美濃部 雄人)

優秀賞(価値創造賞)



「日本色(NIHON IRO)」

所在地:駿河区 用宗
所有者等:株式会社CSA不動産

審査委員より

用宗海岸までほのぼのとした風情のある路地に、古民家をリノベーションした一棟貸しの宿泊施設「日本色」が並び、各棟の名前に由来した色の暖簾が潮風に揺れ、日常を忘れるゆったりとした和モダンの空間を滞在客に提供している。

山に囲まれた海と松林、海の向こうに見える富士山や伊豆半島、そしてどこか懐かしい路地など「港まち用宗」は、静岡市中心部からもぜひ足を伸ばしてほしい新しいスポットだ。周辺には新しい店舗や温泉施設もでき、観光だけでなく、移住や開業を考える人たちにも魅力ある街になりつつある。今後も静岡市の新しい魅力を発信する場、また静岡県を散策する拠点として、港まち・用宗の持つ歴史や文化資源を活かす景観とネットワークづくりなど、地域の人たちと盛り上げてほしい。

(本原 令子)

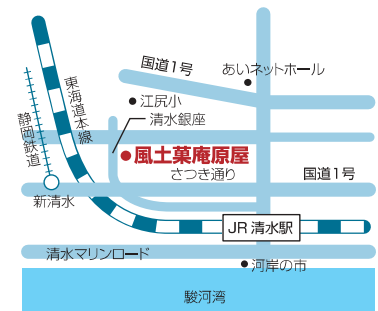
まちかど看板コレクション

大賞



「風土菓庵原屋」

所在地: 清水区 銀座
所有者等: 有限会社清水庵原屋



審査委員より

清水銀座商店街の街並みも、時代と共に変化していき、明るい色目の敷石やレンガが敷かれた歩道や車道が、太陽の光を浴びて、いっそう街並みを明るくしています。その中に、一際目を引くのは、風にさわやかにそよぐ大きな暖簾。

その店『風土菓庵原屋』は創業九十余年という。長い時間をかけて地域の人々に愛されてきた老舗にふさわしいたずまいを感じさせます。手前の頭上には間口いっぱいの丈の短いもの、奥には引き戸サイズの丈の長いものの、二種類の二重掛けになっていて、奥行きと広がりを感じさせ、見る者に見応えと迫力を与えます。

また、暖簾という布の看板は、日本独自の伝統的文化で、この地を訪れた外国人観光客の目にも、とても興味深く映ります。そして、この暖簾は、時期が来るとその季節に合った色やデザインに衣替えされ、人々の往来を温かく見守っているということです。

店主の細やかな気遣いが、暖簾という看板を通して街ゆく人の心と繋がっていく…メッセージ性のある血の通った暖かみのある看板としても好評価致します。(マハラジャン・ナレス)

優秀賞(ツーンとアクセント賞)



「旬菜旬魚 造りの山葵」
所在地: 葵区 紺屋町
所有者等: 株式会社田丸屋本店

審査委員より

店舗入口の黒い壁に設置された看板は、山葵の形と英文字で構成され、緑一色とシンプルで洗練されたデザインでありながら、静岡名産の山葵を使った料理を提供することをストレートに伝える力強さも持っている。

わさび漬けの老舗が営む店舗は、静岡駅から両替町通りに入り、浮月楼入口を過ぎて直ぐ右手にある。

三階建ての建物は、広い面積の木製の縦格子を各階に交互に配置することにより、まちなみに馴染む落ち着いた雰囲気を持たせている。

夜間は日中とは異なり、看板裏側の光源で浮かび上がった山葵のシルエットが、周囲の縦格子から漏れる光とともに、通りを歩く人を引き付ける魅力的なサインになっている。(志村 弘一)

優秀賞(みるい字体賞)



「茶町KINZABURO」
所在地: 葵区 土太夫町
所有者等: 株式会社前田金三郎商店

審査委員より

呉服町通りの北端、呉服町一丁目交差点から北進し茶町通りに入ると、周辺からはお茶の香ばしい香りが漂いはじめ、お茶の街へ来たことを感じさせてくれます。しばらくすると歩道の街路樹の間から白塗りされた外壁、喫茶店のような佇まいの建物が見えてきます。

壁には隷書体が基本と思われるデザイン化された「茶町」の立体文字(通称カルブ文字)が、この街の存在をやさしくアピールしています。「茶町 KINZABURO」の文字バランスが絶妙で建物の印象をより和らげており、「みるい字体賞」にふさわしいロゴだと思います。

入口横には商店の歴史を感じさせる、今ではあまり目になくなった古い銅板製の看板もあり、大切に掲げていることを思わせると同時に老舗であることも物語っていました。店内に入ってみても、ドアと横の窓には控えめながらお茶の実がデザイン化された品格漂うステンドグラスもあり、そちらにも目を惹かれました。

静岡の数々のお茶と抹茶をベースにしたスイーツを店内の和室などでくつろぎながら食べられるなど舌も楽しませてくれ、「お茶の街」の歴史、進化している魅力などが感じられるお店作りだなと感じました。(堤 丈夫)

過去の受賞実績

本市では、平成20年度に景観計画及び景観条例を施行し、今日まで良好な景観形成の推進を行ってきました。過去の景観表彰事業で発見・発掘された景観資源は、さまざまな制度を用いて活用・保全が行われています。

今後も静岡市都市景観表彰事業をきっかけにして、まちづくり活動の推進や貴重な景観資源の活用・保全を図っていきます。

過去の受賞物件一覧 ※現存しない物件も含まれます。

「静岡市まちかどコレクション」

■ 2014 (平成26年度)

1	エコロジー団地 池田の森	駿河区池田
2	パサージュ鷹匠	葵区鷹匠
3	ロアシズオカ	駿河区南町
4	ホテルガーデンスクエア静岡	葵区紺屋町
5	三晃社ビル	葵区紺屋町
6	こんまつ旗店	清水区辻二丁目
7	あまのや繁田商店	葵区伝馬町

■ 2016 (平成28年度)

1	泉ヶ谷地区のまち並み	駿河区丸子
2	小さな美術館 くにし庵	駿河区丸子
3	オブティークHARUTA 伝馬町店	葵区伝馬町

■ 上記以外の旧静岡市、旧清水市における景観賞の受賞実績は、静岡市H.Pをご覧ください。

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/000719764.pdf>

静岡市まちかどコレクション

検索



静岡市

都市局 建築部 建築総務課 都市景観推進係

〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号

Tel:054-221-1049 Fax:054-221-1135

URL:<https://www.city.shizuoka.lg.jp/>



主催:静岡市 建築総務課 都市景観推進係

後援: NHK静岡放送局、(公社)静岡県屋外広告協会、(公財)静岡県グリーンバンク、(公社)静岡県建築士会、(一社)静岡県建築士事務所協会、静岡県広告美術業協同組合、(公社)静岡県造園緑化協会、静岡市国際交流協会、(公財)静岡市まちづくり公社、静岡商工会議所、(公財)するが企画観光局、スルガ銀行株式会社d-labo静岡、(公社)日本建築家協会東海支部静岡地域会 (50音順)